

# いつも一緒に 富山のペットたち

犬がお尻を地面にこすり付けるしぐさを見たことはありませんか。これはお尻にかゆみや痛みなどの違和感があるためです。



橋本 晃聖

橋本動物病院長  
(南砺市一日市)

## 犬の肛門嚢炎

犬のお尻のトラブルについて説明します。後ろ足を前に突き出し、お尻を地面にこすり付けるようにしてすると前に進む、肛門をかばうように尾を下げる、尾を追いかけて、尾に触られるのを嫌がる(肛門をしきりになめる)こんな行動を取ったときは、すぐにお尻の周辺を観察しましょう。

肛門やその周りに異物は付いていませんか。赤くなっていたり、傷やたれ、腫れなどの症状が出たりしていないか調べてください。

お尻のトラブルの原因には、肛門周囲炎、肛門周囲腺炎、肛門嚢炎、回虫などの寄生、下痢、後駆麻痺といった病気が考えられます。その中でも犬に多いのが肛門嚢炎です。

### 細菌感染が原因

犬のお尻を床にこすり付けた時、時計の針の4時と8時の位置にある、左右一対の球状の小さな袋です。犬の体の大きさによって異なりますが、中型犬で1センチ前後です。



犬がお尻を床にこすり付けた時、時計の針の4時と8時の位置にある、左右一対の球状の小さな袋です。犬の体の大きさによって異なりますが、中型犬で1センチ前後です。

肛門嚢内には通常、液状や泥状の分泌物がたまっています。この分泌物はふん便の臭気の数倍にも及ぶ独特の強い悪臭を放ちます。肛門嚢炎は、肛門嚢内にたまった分泌物が腐敗して粘

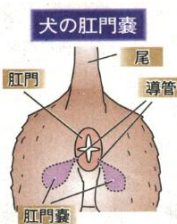
# 分泌物絞ってあげよう

膜を刺激し、炎症を引き起こす病気で、細菌感染が主な原因となっています。

肛門嚢は出口(分泌導管)があり、肛門の内側に開口部があります。犬、肥満によって肛門括約

筋が衰えます。導管の閉塞が続くと、膿を持った腫れ物となり、やがて自然につぶれて皮膚に穴が開き、膿汁の排出に伴って出血し、さらに進行すると皮下組織、筋肉などの体の深い部分にまで達して重症になることがあります。治療法は、症状の程度に応じてさまざまです。

この病気を予防が重要です。肛門の周囲は常に便や泥で汚染されており、病気を起こしやすい環境にあります。清潔を心掛けることももちろんですが、肛門嚢の分泌物が自然に排出できていないときは、飼い主の方が指で絞って空にしてあげることが一番の予防法です。



筋などの筋力が低下した犬も発症しやすいといえます。

かゆみと痛み

肛門嚢炎になると、肛門嚢に分泌物が充満し、腫れ上がり、軽症の場合はかゆみや痛みが主な症状ですが、進むと炎症のため痛みが出て、元気がなくなり食

が、食事制限や十分な運動で肥満を解消することが大切です。運動不足や排便制限を避け、肛門の周りは常に清潔に保ちます。

「いつも一緒に 富山のペットたち」は、毎月第一木曜日に掲載します。

2013(平成25)年10月3日  
北日本新聞